

平成22年度第1回 かわさき市民アンケート 概要版

調査の概要

調査設計等	調査対象	川崎市在住の満20歳以上の男女個人	調査方法	郵送法
	標本数	3,000 標本	調査期間	平成22年7月16日(金)~8月4日(水)
調査項目	標本抽出	住民基本台帳及び外国人登録原票からの層化二段無作為抽出	有効回収数	1,503 標本
			有効回収率	50.1%
	1	生田緑地について	4	救急車の利用について
	2	地球温暖化防止について	5	選挙について
	3	効果的なごみ減量化方策について		

基数となるべき実数(n)は、設問に対する回答者数である。また、本文中の「百分率」は小数点第2位を四捨五入しているため、あるいは複数回答のため、数値の合計が100にならない場合がある。

調査回答者の属性

1 性別

	基数(人)	構成比(%)
1 男性	609	40.5
2 女性	864	57.5
(無回答)	30	2.0
合計	1,503	100.0

2 居住区別

	基数(人)	構成比(%)
1 川崎区	224	14.9
2 幸区	165	11.0
3 中原区	238	15.8
4 高津区	190	12.6
5 宮前区	250	16.6
6 多摩区	230	15.3
7 麻生区	186	12.4
(無回答)	20	1.3
合計	1,503	100.0

3 性/年代別

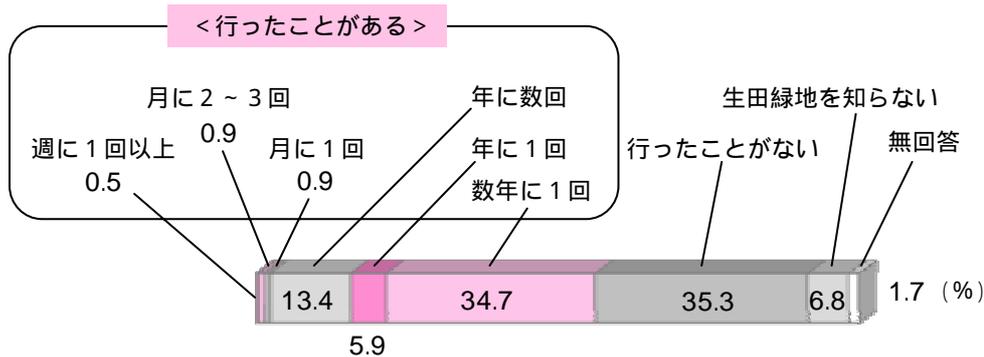
	全体		男性		女性		無回答	
	基数(人)	構成比(%)	基数(人)	構成比(%)	基数(人)	構成比(%)	基数(人)	構成比(%)
1 20歳代	180	12.0	69	11.3	110	12.7	1	3.3
2 30歳代	317	21.1	123	20.2	194	22.5	0	0.0
3 40歳代	309	20.6	115	18.9	194	22.5	0	0.0
4 50歳代	209	13.9	90	14.8	118	13.7	1	3.3
5 60歳代	285	19.0	136	22.3	148	17.1	1	3.3
6 70歳以上	172	11.4	74	12.2	98	11.3	0	0.0
(無回答)	31	2.1	2	0.3	2	0.2	27	90.0
合計	1,503	100.0	609	100.0	864	100.0	30	100.0

1 生田緑地について

1 生田緑地に行った経験・頻度

生田緑地に行った経験・頻度を聞いた。「年に数回」(13.4%)と「年に1回」(5.9%)と「数年に1回」(34.7%)を合わせた<行ったことがある>は5割半ばとなっている。一方、「行ったことがない」(35.3%)は3割半ばとなっている。

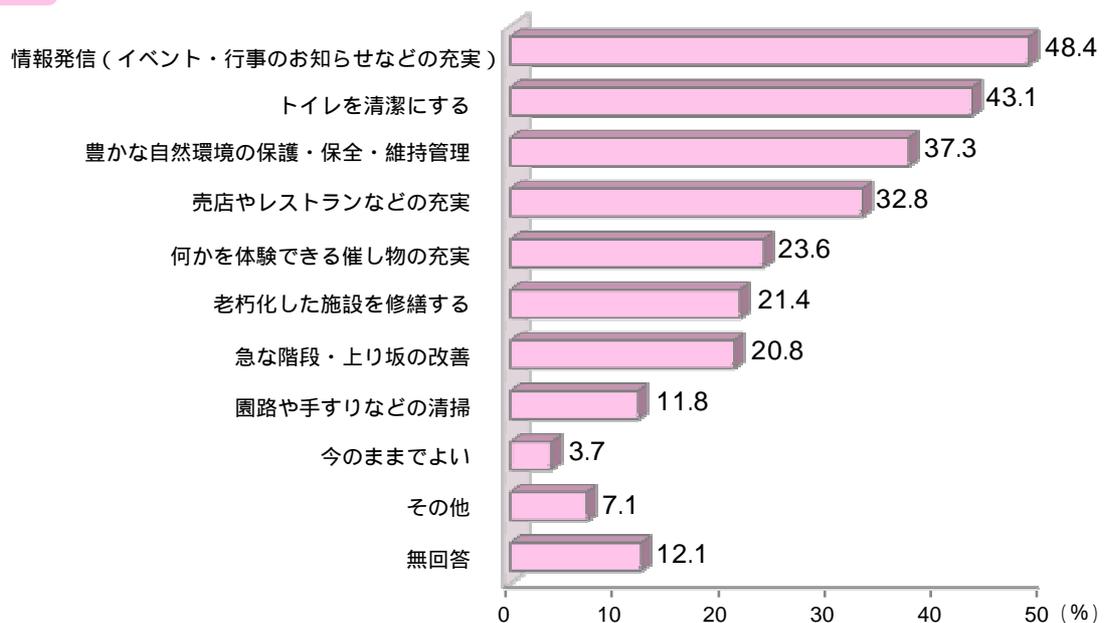
図1 n = (1,503)



2 生田緑地を快適に利用するための条件

生田緑地を快適に利用するための条件を聞いた。「情報発信(イベント・行事のお知らせなどの充実)」(48.4%)が最も高くなっている。次いで、「トイレを清潔にする」(43.1%)、「豊かな自然環境の保護・保全・維持管理」(37.3%)、「売店やレストランなどの充実」(32.8%)の順が続いている。

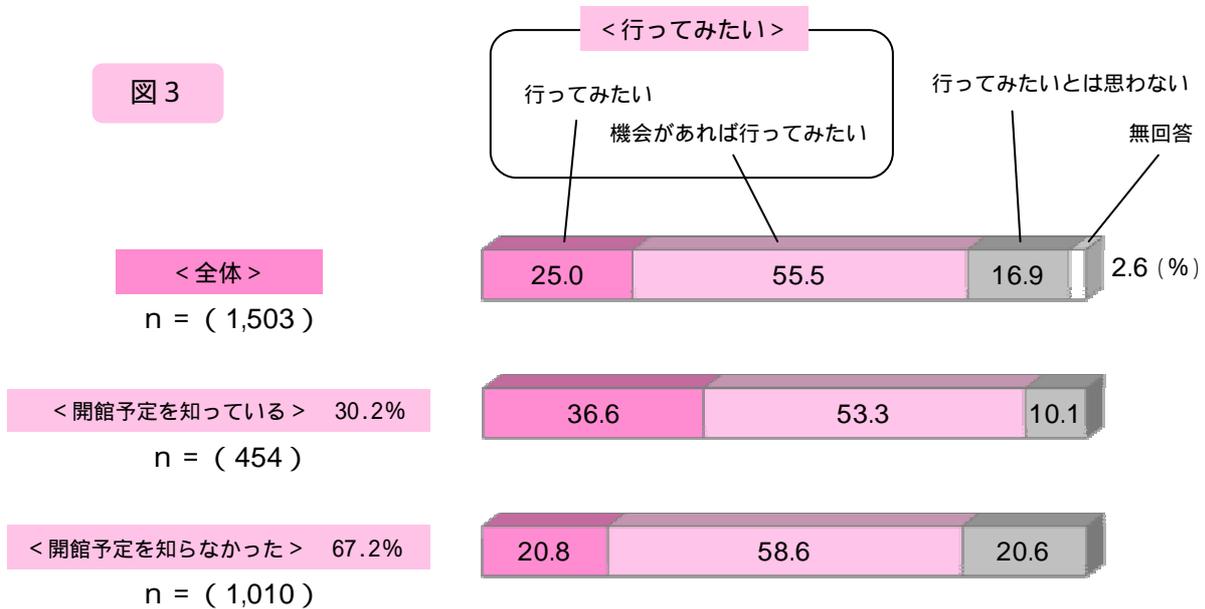
図2 (複数回答) n = (1,503)



3 (仮称) 藤子・F・不二雄ミュージアムの認知状況・訪館予定

(仮称) 藤子・F・不二雄ミュージアムの認知状況・訪館予定を聞いた。<開館予定を知っている>は3割を超えており、<開館予定を知らなかった>は6割半ばとなっている。双方の「行ってみたい」と「機会があれば行ってみたい」を合わせた<行ってみたい>は8割を超えている。

図3

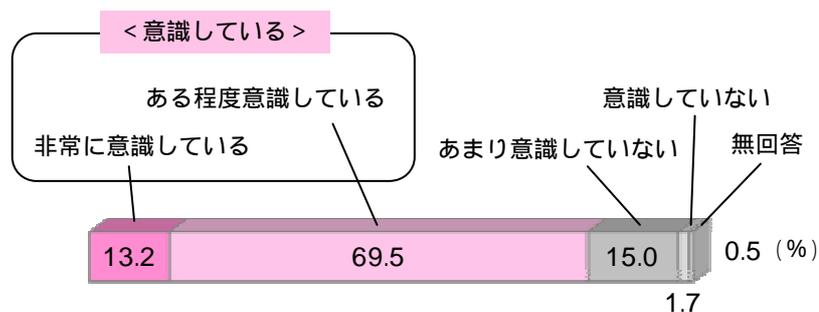


2 地球温暖化防止について

1 日常生活における地球温暖化防止への意識状況

日常生活において地球温暖化防止について意識しているか聞いた。「非常に意識している」(13.2%)と「ある程度意識している」(69.5%)を合わせた<意識している>は8割半ばとなっている。一方、「あまり意識していない」(15.0%)と「意識していない」(1.7%)を合わせた<意識していない>は1割半ばとなっている。

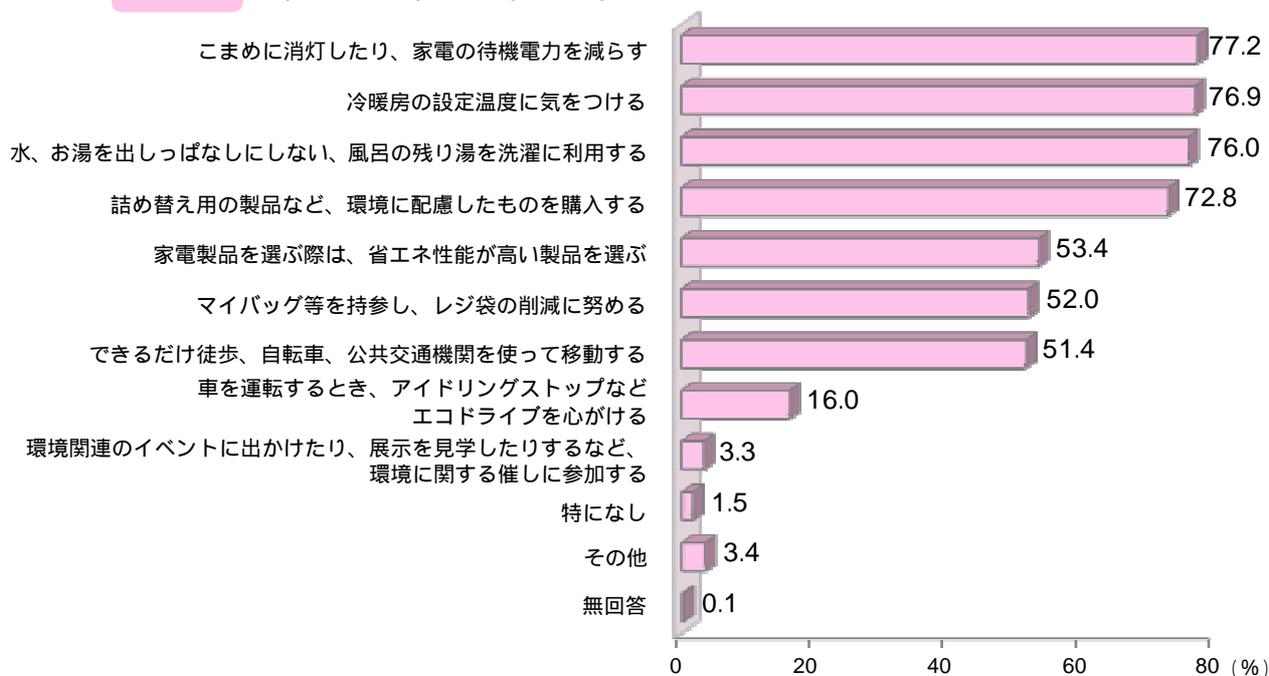
図4 n = (1,503)



2 地球温暖化防止のために現在行っている取り組み・今後行いたい取り組み

地球温暖化防止のために現在行っている取り組み・今後行いたい取り組みを聞いた。「こまめに消灯したり、家電の待機電力を減らす」(77.2%)が最も高くなっている。次いで、「冷暖房の設定温度に気をつける」(76.9%)、「水、お湯を出しっぱなしにしない、風呂の残り湯を洗濯に利用する」(76.0%)、「詰め替え用の製品など、環境に配慮したものを購入する」(72.8%)の順に続いている。

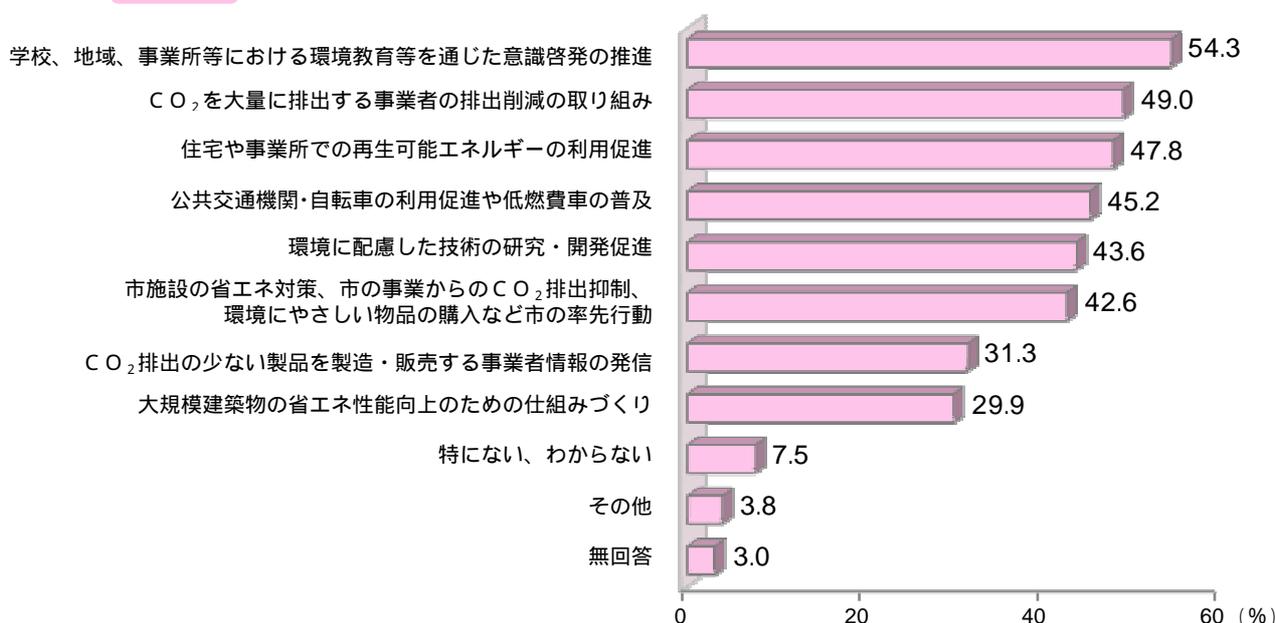
図5 (複数回答) n = (1,503)



3 川崎市に取り組んで欲しい地球温暖化対策

川崎市に取り組んで欲しい地球温暖化対策を聞いた。「学校、地域、事業所等における環境教育等を通じた意識啓発の推進」(54.3%)が最も高くなっている。次いで、「CO₂を大量に排出する事業者の排出削減の取り組み」(49.0%)、「住宅や事業所での再生可能エネルギーの利用促進」(47.8%)、「公共交通機関・自転車の利用促進や低燃費車の普及」(45.2%)の順に続いている。

図6 (複数回答) n = (1,503)

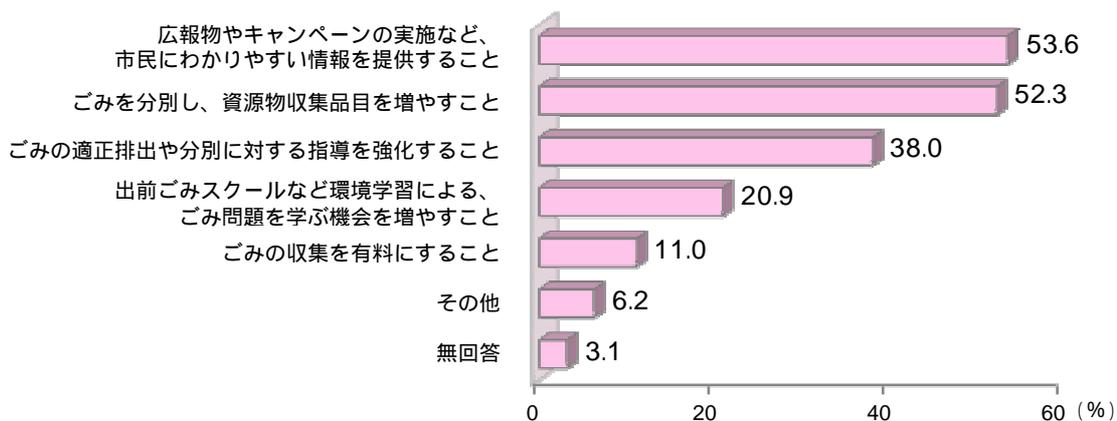


3 効果的なごみ減量化方策について

1 家庭系ごみ減量化のために効果的だと思われる方法

家庭系ごみ減量化のために効果的だと思われる方法を聞いた。「広報物やキャンペーンの実施など、市民にわかりやすい情報を提供すること」(53.6%)が最も高くなっている。次いで、「ごみを分別し、資源物収集品目を増やすこと」(52.3%)、「ごみの適正排出や分別に対する指導を強化すること」(38.0%)、「出前ごみスクールなど環境学習による、ごみ問題を学ぶ機会を増やすこと」(20.9%)の順が続いている。

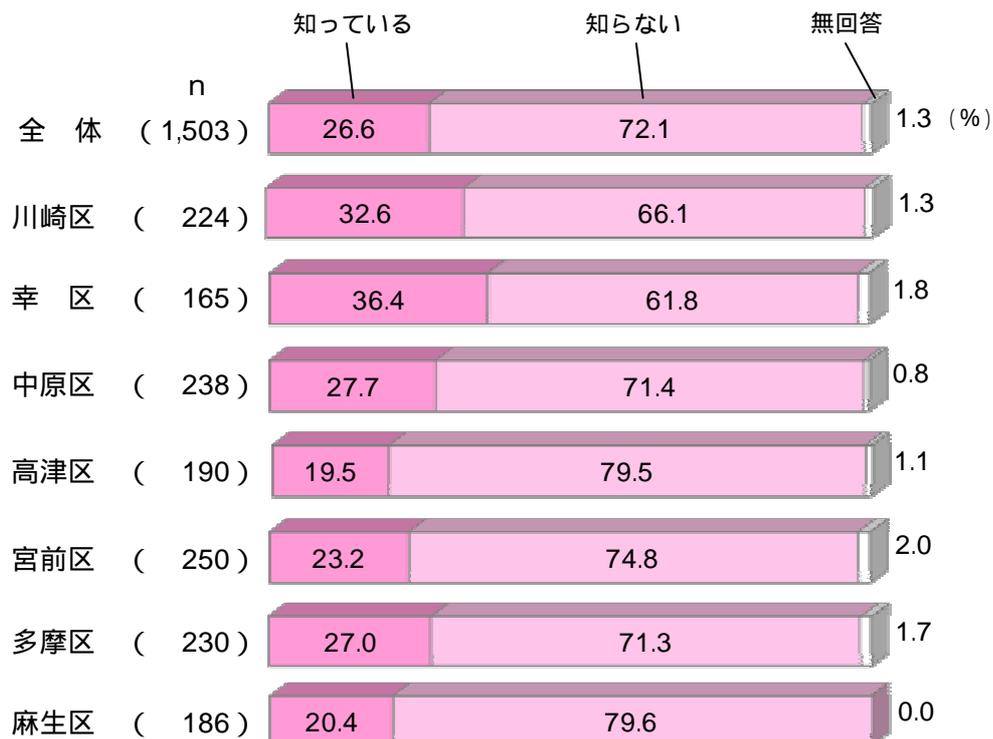
図7 (複数回答) n = (1,503)



2 ミックスペーパー分別モデル収集実施の認知状況

ミックスペーパー分別モデル収集が既に実施されていることを知っているか聞いた。全体では「知っている」(26.6%)が2割半ばとなっている。区別では幸区の3割半ば(36.4%)が最も高くなっている。

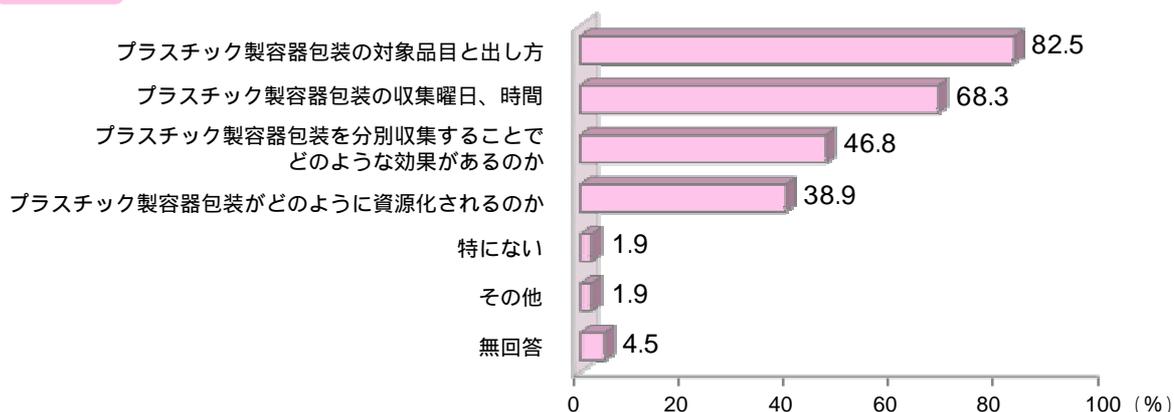
図8



3 プラスチック製容器包装の分別収集において必要とされる情報

プラスチック製容器包装の分別収集において必要とされる情報を聞いた。「プラスチック製容器包装の対象品目と出し方」(82.5%)が最も高くなっている。次いで、「プラスチック製容器包装の収集曜日、時間」(68.3%)、「プラスチック製容器包装を分別収集することでどのような効果があるのか」(46.8%)、「プラスチック製容器包装がどのように資源化されるのか」(38.9%)の順に続いている。

図9 (複数回答) n = (1,503)

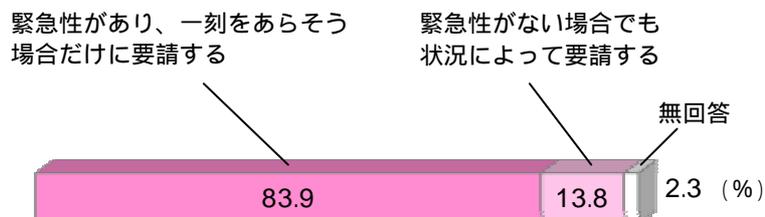


4 救急車の利用について

1 救急車要請における緊急性についての意識状況

救急車はどのようなときに要請するべきものか聞いた。「緊急性があり、一刻をあらそう場合に要請する」(83.9%)は8割半ばとなっている。一方、「緊急性がない場合でも状況によって要請する」(13.8%)は1割半ばとなっている。

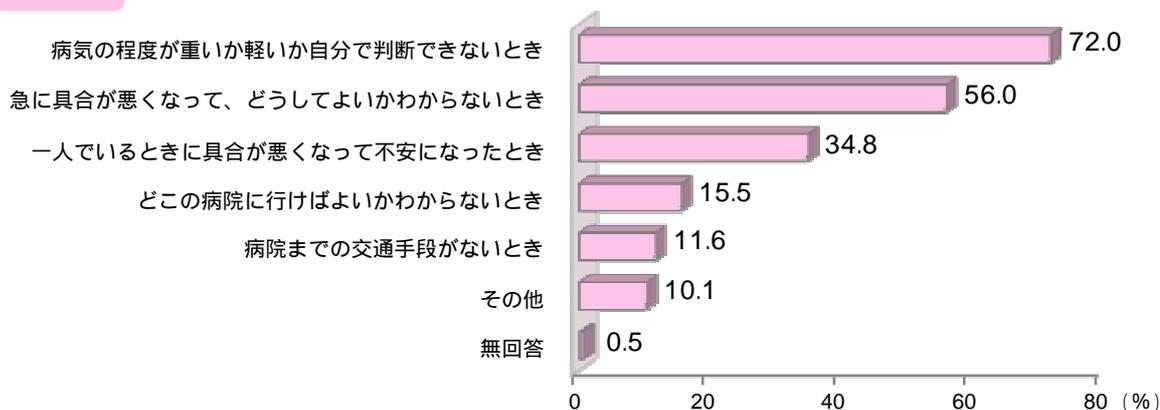
図10 n = (1,503)



2 緊急性がない場合に救急車を利用する理由

緊急性がない場合に救急車を利用する理由を聞いた。「病気の程度が重いか軽いか自分で判断できないとき」(72.0%)が最も高くなっている。次いで、「急に具合が悪くなって、どうしてよいかわからないとき」(56.0%)、「一人でいるときに具合が悪くなって不安になったとき」(34.8%)、「どこの病院に行けばよいかわからないとき」(15.5%)の順に続いている。

図11 (複数回答) n = (207)

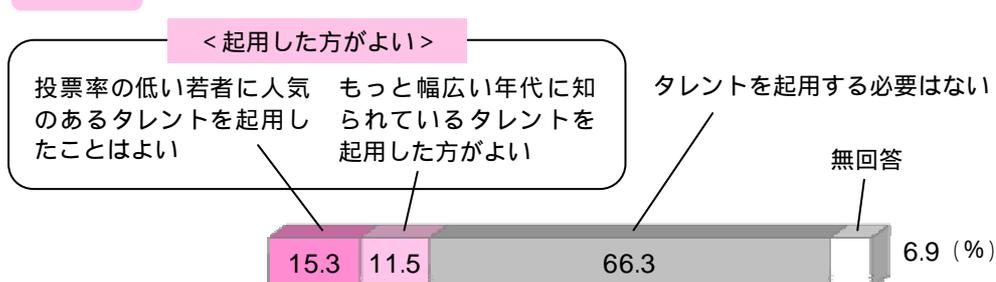


5 選挙について

1 選挙啓発イメージキャラクターとしてタレントを起用したことについて

昨年10月の川崎市長選挙において、啓発イメージキャラクターとして若者に人気のあるタレントを起用したことについて聞いた。「タレントを起用する必要はない」(66.3%)が6割半ばとなっている。一方、「投票率の低い若者に人気のあるタレントを起用したことはよい」(15.3%)と「もっと幅広い年代に知られているタレントを起用した方がよい」(11.5%)を合わせた<起用した方がよい>は2割半ばとなっている。

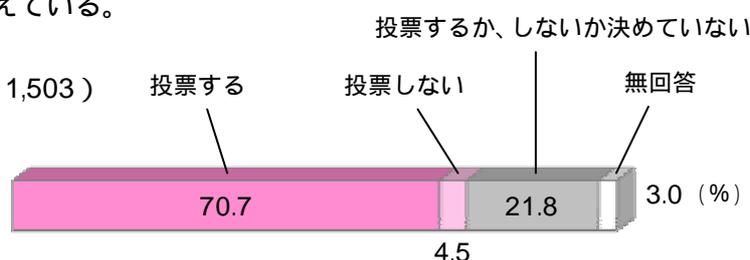
図12 n = (1,503)



2 来春の川崎市議会議員選挙等の投票についての意識状況

来年の春に行われる川崎市議会議員選挙等の投票に行くか聞いた。「投票する」(70.7%)は7割を超えている。一方、「投票しない」(4.5%)は約0.5割、「投票するか、しないか決めていない」(21.8%)は2割を超えている。

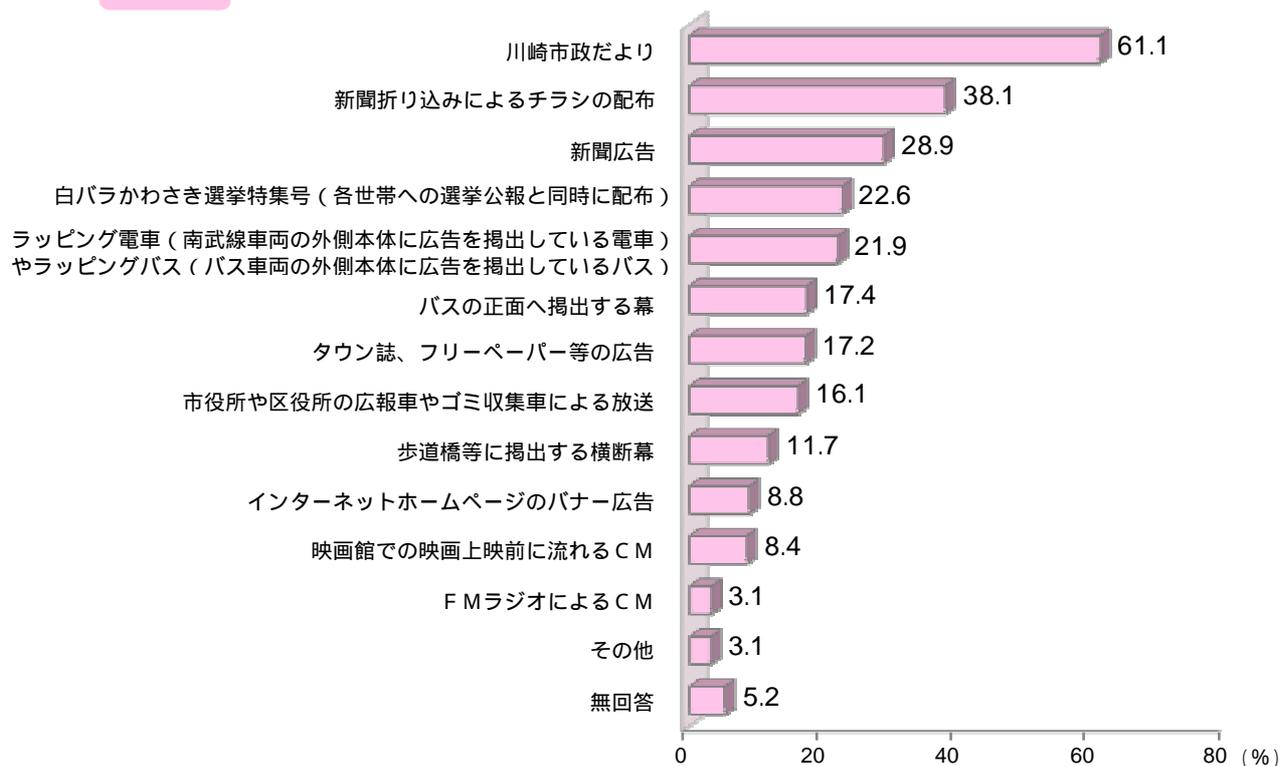
図13 n = (1,503)



3 今後の選挙において、効果的だと思われる市からの情報源

今後の選挙において、効果的だと思われる市からの情報源を聞いた。「川崎市政だより」(61.1%)が最も高くなっている。次いで、「新聞折り込みによるチラシの配布」(38.1%)、「新聞広告」(28.9%)、「白バラかわさき選挙特集号(各世帯への選挙公報と同時に配布)」(22.6%)の順に続いている。

図14 (複数回答) n = (1,503)



平成22年度第1回かわさき市民アンケート概要版

平成22年10月

発行 川崎市総務局市民情報室市民の声担当

〒210-8577

川崎市川崎区宮本町1番地

電話 044-200-2293(直通)

FAX 044-200-3919